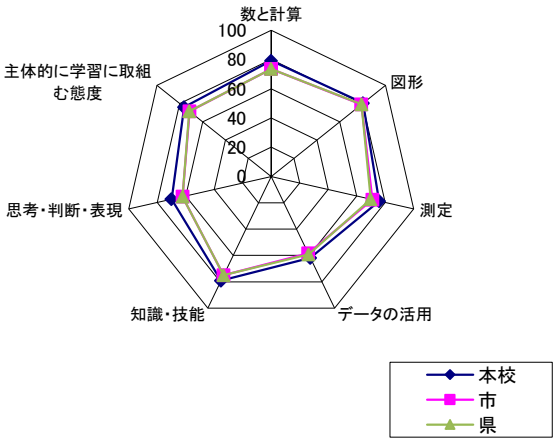


宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.2	73.5	73.6
	図形	80.5	79.0	79.1
	測定	75.8	71.1	69.8
	データの活用	61.9	58.4	59.2
観点	知識・技能	79.2	75.0	75.0
	思考・判断・表現	69.9	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	76.1	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は79.2%で、県より5.6ポイント上回っている。 ○「2けた×1けた＝3けたの計算ができる」の正答率は88.3%で、県より9.1ポイント上回っている。「2けた×2けた＝4けたの計算ができる」の正答率は81.8%で、県より12.7ポイント上回っている。 ●「かけ算の筆算に出てくる数の意味を理解している」の正答率は県より0.5ポイント上回っているが、39.0%と高くない。	・朝の学習や授業、AIドリル等を利用し、計算練習に繰り返し取り組み、技能のさらなる定着を図る。 ・日頃の授業の中で、筆算のしかたを言葉や式などを用いて説明し合う活動を充実させることで定着を図る。
図形	○平均正答率は80.5%で、県より1.4ポイント上回っている。 ○「正三角形を作図することができる」の正答率は93.5%で、県より5.7%上回っている。 ●「球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求めることができる」の正答率は71.4%で、県より1.8ポイント下回っている。	・図形単元の授業の中で、既習事項を確認し、復習ができるような授業展開を行う。 ・具体物を用いて指導し、球の半径や直径の意味について、視覚的に理解できるようにする。 ・設問の意味を理解し合うような学び合いの場を設定し、自ら作図したり説明したりして、解決に向かうよう支援する。
測定	○平均正答率は75.8%で、県より6.0ポイント上回っている。 ○「ある時刻から一定時間が経過する前の時刻を求めることができる」の正答率は79.2%で、県より7.5ポイント上回っている。 ●「単位の前にはkがつくと、もとの単位の1000倍になることを説明している」の正答率は県より4.7ポイント上回っているが、59.7%と高くない。	・測定単元の授業の中で、既習事項を確認し、復習ができるような授業展開を行う。 ・長さや重さの単位について、朝の学習や宿題等で、定期的に復習に取り組むようにし、確実な定着を図る。
データの活用	○平均正答率は61.9%で、県より2.7ポイント上回っている。 ○「棒グラフの1めもりの大きさに着目して、間違いを指摘している」の正答率は67.5%で、県より4.5ポイント上回っている。 ●「棒グラフを正しく読み取ることができる」の正答率は57.1%で、県より0.8ポイント下回っている。	・日頃から、問題文や資料を読み取り、読み取ったことを正しく説明する場を増やしていくようにする。 ・国語や総合的な学習の時間等において、グラフや表を用いて表現したり説明したりする活動を取り入れるなど、他教科との関連を図る。